

令和３年度 多治見市民病院指定管理者評価委員会議事録

【日 時】 令和３年７月２６日（月） １３：３０～１５：００

【場 所】 多治見市役所 駅北庁舎 ４階第３会議室

【出席者】 中村 俊之 委員長（東濃保健所長）
尾関 恵一 委員（多治見市監査委員）
渡邊 正紘 委員（多治見市１９区区長）
鈴木 亜紀子 委員（市民代表）
（事務局）
今井裕一（市民病院院長）池田達也（市民病院事務長）
澤田誠代 市民健康部長、高木裕美 保健センター所長（進行）、
保健センター（大畑幸二総括主査）

【次 第】

- 委員紹介、事務局紹介
- 市民健康部長あいさつ
- 委員長により開会
- 傍聴人有無の確認
傍聴人無し
- 会議の成立確認
全員出席により成立
- 事務局から評価シートの見方、評価の定義等の説明
- 指定管理者、指定期間、業務の範囲の説明

【議事概要】

（事務局）

～資料１について説明～

１ 診療について

（委員）

医師や看護師の目標はどのように設定しているのか。

（事務局）

看護師については、国で決められた配置基準があるため、それを満たすための目標設定としている。医師については、多治見市民病院規模の病院の場合、常勤医師４５～５０人ほどが最大値と考えており、そのために年々増えるような目標値としている。ただ、人数だけではなく、どの診療科の医師を確保できるかも大きな要素となる。

（委員）

令和２年度の医師確保は上手くいったのか。

（事務局）

適切な医師確保ができたと考えている。

(委員)

コロナ禍で医療従事者の離職も話題となっているが、市民病院職員の定着率はどのようなか。

(事務局)

医師はおおよそ5年毎に交替する流れとなっており、短すぎず長すぎず良い流れではないかと考えている。看護師については、在職3年以上の者が多く勤務している。看護師の離職率は、全国平均が10%を超える中、当院は7%程であり、他病院と比較すると定着率は高い。

(委員長)

研修医が2名増えている。若い医師が増えているのは大変心強いことだと思う。また、コロナ禍で受診離れが起きた中、患者数が増加しているのは大変評価に値することだと思う。

診療科が増えているが、どの診療科か。

(事務局)

腎臓移植外科である。

(委員長)

診療についての各項目の評価について、すべての項目を○とする。

(事務局)

【評価の確認】職員配置○、外来診療○、入院診療○、安全管理・医療倫理○

2 政策的医療について

(委員)

救急搬送患者数は増加、救急患者数は減少となっているがどういうことか。

(事務局)

救急車による搬送患者は増加したが、救急車以外で来院する時間外患者数が減少したということである。令和2年度の管内における救急車出動件数は対前年15%程減少しているが、市民病院での受入は多くなった。17時から20時の救急外来を医師3人体制とするなど、救急体制に力を入れた結果が出たと考えている。

(委員)

小児科の患者数はここ数年で年々減少している。コロナの影響だけではないと考えるがいかがか。

(事務局)

小児科の患者数はインフルエンザなどの流行次第で波がある。令和2年度はコロナによる受診控え等もあり、地域の診療所などでは7、8割患者数が減少したと聞いている。

(委員)

患者数減少の要因をしっかりと分析していただいた上で、今後の診療の対策を立てていただきたい。

(委員)

発達障害を診療する医師が3月で退職となったと聞いているが今後はどうなっていくのか。

(事務局)

発達外来の専門医師は少なく、新たな医師を確保するのは、大変困難な状況となっている。発達障害については、県の事業として位置付けられており、今後、多治見市民病院だけでなく、広域的な視点で検討していくことが課題であると考えている。

(委員長)

保健衛生事業について、「子宮がんドック」や「肺がんドック」を実施しているとのことであるが、これらについても実施件数を明記していただけると良いと思う。

(委員)

政策的医療は、通常不採算部門となる分野を実施するため市が負担金を出しているものである。それを踏まえた上で適切な診療の提供に向けて取り組んでいただきたい。また、市においても、病院に何を求めるのかを明確にしておく必要がある。

(委員長)

各項目の評価について救急医療、小児医療、リハビリテーション医療、保健衛生事業、災害時医療について○とする。

(事務局)

【評価の確認】救急医療○、小児医療○、リハビリテーション医療○、保健衛生事業○、災害時医療○

3 地域医療連携等について

(委員)

紹介率について、開業医との信頼関係を築いていくことは大変なことだと思うが、徐々に上がってきている。令和2年度が、対前年4.5%上昇したのは評価に値すると思う。

(事務局)

県病院との連携を図りながら、紹介率向上に向けて努力している。また、コロナ感染対策を徹底した上で、実習生の受け入れを積極的に行った。

(委員)

目標値の設定について、前年度の状況も踏まえた上で次年度の計画を立てていただけると良い。

(委員長)

各項目の評価について、地域医療機関の連携等○、市民参加の促進○、市の施策協力○、介護保険事業等高齢福祉の協力○、施設の維持管理○とする。

(事務局)

【評価の確認】地域医療機関との連携等○、市民参加の促進○、市の施策協力○、介護保険事業等高齢福祉の協力○、施設の維持管理○

(委員長)

コロナ関連の補助金もあり前年度を大幅に上回る黒字となった。

(事務局)

コロナに関して、約 220 名の患者の受け入れを行った。

(委員長)

そのほかに質問・意見はないか。

(委員)

産科開設に向けての状況はどのようなか。

(事務局)

産科病棟となる場所を、コロナ受入病床として使用しているため、コロナがおさまるまでは産科開設は難しいと考えている。また、産科医師の確保も困難な状況である。

(委員)

このところ多治見市の人口は減少傾向にある。移住定住の観点から、子どもを産みやすい環境をつくることも大切ではないかと考える。是非とも産科開設に向けて尽力いただきたい。

(委員長)

そのほかに質問・意見はないか。

(委員)

特になし

(委員長)

これをもって閉会とする。(15 : 00 終了)